

# パーソナルデザイナーサービス

---

町田市通所介護事業所連絡会

# 1 認知症対応型通所介護とは

- 認知症である利用者が、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう、デイサービスに通い日常生活に必要な介護や機能訓練を行います。  
(町田市・介護保険のしおりより)



送迎



健康チェック



入浴



体操



食事



機能訓練



アクティビティ





## 2 特徴

### ●手厚い人員配置

一般型通所介護 → 「利用者5人に対して職員1人」。

認知症対応型通所介護 → 「利用者3人に対して職員1人」の配置が義務。

一日の定員が12名以下と少人数。

細かな観察や個別対応が可能、BPSDと言われる認知症の周辺症状の緩和や軽減に取り組める。

### ●「認知症介護」に関する研修修了者必置の義務

東京都による「認知症介護実践者研修」、「認知症対応型サービス事業管理者研修」の履修者配置が義務、認知症介護のフロアが配置されている。

# 3 サービス内容

## ・送迎

ドアトゥドアが基本。必要に応じてベッドトゥベッド。  
連れ出し困難な方でも、専門的見地からさまざまな工夫によるお連れだし。

## ・入浴

身体的・精神的に入浴が難しい方にもさまざまな浴槽の種類や関わりを通して支援。

## ・食事

食形態の工夫、道具の工夫、光・音・匂いなど環境設定の工夫などにより、食事を提供。

## ・リハビリ

身体的な機能低下予防、生活能力や認知機能の向上にも働きかけるリハビリを実施。

# 4 事例紹介

<テーマ>

～認知症の方が安心して通えるデイサービス～





# (1) 基本情報

年齢: 82 歳	性別: 女性	要介護度: 2	世帯状況: 家族同居 (世帯状況詳細↓)
障害生活自立度: B2	認知症自立度: III b	2世帯住宅 夫と同居	
<b>身体状況</b> (ADLや既往歴、現病など)	<b>生活状況</b> (生活歴や自宅環境など)	<b>意識状態</b> (認知症の周辺症状など)	
69歳で脳髄膜腫発症。手術歴あり。ADLは基本自立も時折、歩行時ふらつきあり。	2世帯住宅も息子は海外出張中。主介護者は夫。夫は癌であり、自分が先に死んだ時、妻がどうなるのか不安を抱いている。出来る限り、在宅での生活を希望している。	・アルツハイマー型認知症。 ・物とられ妄想あり。 ・若干のうつ傾向あり。 ・同じ話の繰り返し。 ・短期記憶の喪失顕著。	

## **(2) サービス利用までの経緯**

- ・家にひきこもりがちなので、デイサービスの利用により認知症の進行を遅らせる事が目的。**
- ・夫の認知症対応型デイサービスへの抵抗感により、一般型デイサービスを利用。**
- ・利用中、一般型の利用者の言動に傷つく事あり、泣きながら「デイにはもう来ない」との発言があった。**
- ・夫にはその都度、説明を行う。主治医とケアマネに相談の結果、夫も納得の上で認知症対応型デイサービスの利用となる。**

# (3) サービスの内容について

<b>利用期間</b>		H 26 年 3 月 1 日 ~ H 年 月 日					
<b>週間計画</b>		サービス導入 H 26 年 3 月 1 日~ 看護サービス: 無 ( 介護保険 )					
時間	日	月	火	水	木	金	土
9:30							
12:00							
16:40							

**支援のポイント**  
主に対して行動の抑制はしない。訴えることはよく聴きとり情報を各担当で共有する。不穏時は特に個別に対応する。

**デイサービス利用時の支援内容**

9:30~ 10:10	トイレ誘導、健康チェック、水分補給
10:10~ 11:00	回想法・脳トレ
11:00~ 11:50	全体体操、集団ゲーム
11:50~ 13:00	昼食、服薬介助
13:00~14:00	昼寝、食休み、テーブルゲーム等
14:00~15:00	学習療法、アクティビティ活動(創作等)
15:00~15:30	水分補給、おやつ
15:30~16:30	個別機能訓練、個別プログラム
16:30~16:40	帰宅準備



## **(4) サービス利用の効果について ①**

### **・一般型デイサービスと認知症対応型デイサービスの違い**

**夫の希望により一般型のデイサービスを利用、他の利用者から邪険にされ、厳しい表情のまま帰宅、落ち着いた生活が営めない。**



**専門的知識を身に付けたスタッフが個別レクリエーションや機能訓練、回想法等を提供、馴染みの関係が築け笑顔も多くみられるようになった。帰宅後も穏やかにい、落ち着いた生活が営めるようになった。**

## (4) サービス利用の効果について ②

### ・日常生活について

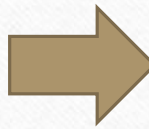
夫が妻の行動や言動が受け入れられず、暴言・暴力にまで発展しかけ、ストレスが限界状態である。



帰宅後も穏やかに過ごされ、夜間もお休みになる事が多くなった。これにより、夫の妻に対するストレスが軽減されている。

### ・家族の介護について

夫は、認知症の知識のなさで感情的になる自分に自己嫌悪になり、精神的に追い詰められている。



送迎時のスタッフとの会話やスタッフの助言・提案によりひとりでないという意識が芽生え、認知症の理解を深め、心に余裕ができた。



## **(5) 結果**

### **サービス利用前**

- ・本人は認知症に苦しみ、家族はその介護に苦しみ、社会的にも孤立。このままでは、痛ましい事故にも発展しかねない状況にあった。



### **サービス利用後**

- ・認知症対応のフロが介入することにより、本人の症状は安定。家族も適切な対応法について学ぶ機会を得、自宅で穏やかな生活を送ることができている。

## (6) 利用者や支援者のコメント

ご家族

泣いて「もう行きたくない」と言われた時はそうしようかと思っていた。デイに通ってくれないと自分の介護負担も軽減できず、在宅生活を続けられないと思っていた。認知症対応型へ変更してからは徐々に穏やかになっていき、笑顔も増えてきたと思う。感謝している。

ケアマネ

初回アセスメント時は一般型で対応可能だと考えていたが、認知症対応型へ変更し、ご本人様が穏やかに過ごすことが出来き安心した。不穏症状の緩和や個別的なケアが出来る事はサービス継続するに当たり、重要。サービスを継続できることが在宅生活を安定させることに繋がるので、ご家族様も大変助かっていると思う。



# (7)サービスの様子



















## **5 町田市内の事業所紹介**

**お手元の資料をご参照ください。**



**お願い**

**認知症の方には**

**パーソナルテイクサービス**

**(認知症対応型通所介護)**

**のご紹介をお願いします。**

**御清聴ありがとうございました。**